

極秘

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線2171、2174）に。
- 3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

4-16

送 番 号 主 管
 月 09日 中 国 発 亞 中
 61年 11月 09日 本 省 着
 外 務 大 臣 殿 中 江 大 使

総理訪中（コ総書記との会見—国際関係）

第3757号 極秘 大至急

ナカソネ総理とコ総書記との会見のうち、国際関係部分概要次のとおり。

1. (1) コ総書記より、二国間関係（経済等）はチョウ総理との会見にゆずるので、今般はひとつ国際関係についていくつかの点をお知らせしたいと前置きの上、次のとおり述べた。

(2) 中国の外交政策は変わらないことを保証する。中国は長期にわたり独立自主と平和の外交政策をけん持している。いかなる時も軍備競争に参加せず、大団や国家集団と同盟することはない。世界各国との友好協力関係を維持することに努める。

(3) 米中関係は、全体的には、順調に発展しており満足している。米国は既に出来上つている米中友好のわく組を維持したいとしている。われわれもこれを真げんに守つていく。

具体的なことをお知らせするのだが、米国は三—四回にわたり、自分に対し訪米方招請してきている。これは自分にとって割とやりにくい問題である。というのは、もし自分が訪米するなら双方が合意する新しい了解が出来るというのであればよいのだが、この点米は困難をかかえている。もうひとつは、自分が訪米するなら、東欧の五つ

100922 046 8993 03

- 注意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線2171、2174）に。
 3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

の社会主義国をも訪問しなければならなくなるが、そうなると来年の党全国代表大会の準備が難しくなる。自分の主な精力は十三回党大会に注がれている。そんなわけで来年は、米国も東欧もいずれも訪問しないこととし、明後年にあらためて検討することとした。このことは米国の友人にはまだ伝えていないが、貴總理とは話しやすい間がらなので先にお知らせした。

(4) 中ソ関係は実質的進展はない。三つの障害、特にカンブチア、アフガンでソ連に誠意はみられない。カンブチアについては越のはい後にソ連がいるのだが、越はヘンサムリンを中心としてシアヌーク、ソンサンをわき役におき、ポルポトを排除しようとしているが、われわれはシアヌークを中心におく、三派ないし四派の連合を実現し、民族話解をはかる、一方が他方をくうことがないようにして、独立、平和、中立、非同盟の国とすることを主張している。この点多くの社会主義国を含む大多数の諸国が賛成しているし、貴国もこれを支持している。

ゴルバチョフ書記長が、国内経済や国際緊張の緩和等の面でいろいろやろうとしていることは分るが、既に得たものを手放そうとはしない。そんな状態では、われわれとしてはソ連との間に共通の言話が欠けるのである。

ゴルバチョフは来年の訪日を延ばすことにしているとのニュースもあるようだ。北方領土問題については、何らかのじゆう軟し勢をとる可能性もあるようだが、それなら日本に対して交換条件を出してくるだろう。リセンネン国家主席は、先般ホネッカー議長と会見した時、ソ連は北方領土を日本に返すべきである。何故手放さないのか、と述べたことをお知らせする。

100922 046 8993 03

注意

1. 本堂の取扱いに慎重を期せられたい。
2. 本堂の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線2171、2174）に。
3. 主旨変更に関する照会等は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

中国と東欧との間には比較的大きな改善がある。改善のかぎは一昨年中国側があるルートを通じて伝えた「三つの十分なそん重」にある。これは公知の事実となつていますが、われわれが東欧社会主義国に対し、それら諸国とソ連との間に数十年間続いている関係が維持されることを認める（注：後刻、トウカセン・アジア司副司長は、「認める」との表現は問題があり、「そん重する」とする方が正確である旨内話）旨伝えたことは公表されていない。

2. 右に対し、総理より次のとおり述べられた。

(1) 中国が非同盟主義をとつておられるのに対し、わが国は日米安保体制によつて国の安全をはかつており、これは今後ともけん持する。

(ここでコ総書記より、中国としては理解しており、異論はない旨発言。) 軍国主義とか過大な軍備をもつことは厳にいましめている。閣下に申上げてきている政策をけん持していく。

(2) しかしながら、北東アジアの軍事情勢をみると、一部の国が軍備増強をしている。これに対してふるい兵器や戦術では対抗出来ないので、相応するように自衛の範囲で軍備を更新してゆかなければならない。更に近りん諸国ASEAN諸国と提携していくことはアジアの平和にとつて重要であると思う。

(3) ゴルバチョフの来日時期は不明である。10月17日には北方領土返かんの決議を衆参両院で行つた。北方領土をかかえているソ連との間で無原則にいたずらな政経分離はとらない。3つの障害と北方領土はにている面があると思う。「ゴ」来日のような大事な問題については常時情報を交換してゆきたい。わが国の立場には一かん

100922 046 8993 03

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線2171, 2174）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

性があり、げん想はいだかない。

(4) ミソ首のう会談では合意は成立しなかつたが、わが国としてはこれが成立することを希望している。SDIには理解を示しており、核特にICBMを廃絶する防ぎよ的兵器体系を造るものとして研究参加の交渉を米と始めている。SDIはひさしく滞っていた米ソ軍縮交渉を再開させ、レイキャビク会談を行わせる引金になつた。まだ研究段階でいかなる兵器体系になるかは不明であり、20年も30年もかかるかもしれない。いずれにしろ、米の研究、日欧の研究参加が米ソ軍縮に影響を与え、ソ連も本気になつている。わが国が特に関心をもっているのはINF、SS20の問題であるが、アジアが欧州のぎ性になつてはならない。レイキャビクのINFに関する潜在的合意は、欧州ゼロ、アジア100基ということで一歩前進だつたが、いずれアジアもゼロにするよう努力したく、米国にも話をしてゆきたい。

(5) アフガン、カンブチアについてはわが国の立場と中国の立場はほぼ一致している。カンブチアについてはASEANの立場を支持し、三派連合を支持している。アフガンについては6個連隊の撤退が単なる交替に過ぎないのかどうか不明であり、いずれにしろ10万以上の大軍がいることに変わりはあるまい。

米、ソ、韓国、ホンコン、タイに転電した。(了)

1009222 046 8993 03